ヒグマ

「さっぽろ農学校は蝦夷ガ島、クマが棲む・・・・」といきなりクマが出てきて驚いたのは昭和 32 年 4 月、北大恵迪寮での先輩寮生による夜中のストームの洗礼でした。北海道を目指す時点でヒグマが棲息していることは承知していましたが、ストームの唄の出だしに詠まれていることまでは知りませんでした。その後は登別温泉のクマ牧場や動物園で囲われたヒグマは度々みましたが、野生の実物には未だにお目にかかったことはありません。しかし、身近にいることは間違いなく、札幌市内に出没が頻繁なテレビ報道ばかりでなく、森に入っての爪跡や咬み跡さらに糞などの痕跡にはしばしば出会います。2013 年 5 月 13 日の支笏湖 CGC の森での補植作業では上の写真のように新しい脱糞に出会いました。

北海道ではヒグマと人間の接触は毎年どこかで発生していることで、珍しいことではありません。日本最大の哺乳動物なので、狩猟の対象であり、アイヌ文化と深い係わりがあることは道産子ならずとも良く知られていることです。わが協会でも冬季セミナーで専門家に依頼してヒグマの勉強会を行ったりしていますので、多くの会員はヒグマの知識はとりたててこの紙面で述べる必要はないレベルにあると思います。

人間がヒグマに出あって殺された記録は幾つかはあり、毎年何処かで誰かが出くわして怪我させられた記事や報道がありますが、猛獣としての怖いイメージよりは、熊本市の「クマモン」や日ハムの応援キャラクターの「B・B」もクマがモデルですから結構愛されているのです。縫ぐるみの定番としてレトロなテディベアはプレスリーが唄ってくれたほどの人気で、未だに衰えていません。北海道の観光土産の木彫りのクマも長期安定定番商品として定着しています。

そうはいっても、クマ避けの鈴は森に入る場合は出来るだけ着けた方が安心にちがいありません。